

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号473にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:472 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:471 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:474 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。

COOP-JOSO News Letter



2021年9月2回号 発行:常総生協広報G

2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

届け！ ミャンマーへの想いととともに！ ～たくさんの折り鶴をありがとうございました～

5月に開催したミャンマーの情勢を知る学習会後、組合員の皆様にご協力を呼びかけた「平和を祈る千羽鶴」は大小の折り鶴をあわせて、10000羽以上集まりました。色とりどりの折り鶴とともに、温かなメッセージも寄せられました。ご協力ありがとうございました。心よりお礼と感謝を申し上げます。



7月12日～14日の3日間、集まった折り鶴に糸を通し、千羽鶴に仕上げる作業を行いました。学習会の講師を務めてくださった組合員の荒木ご夫妻を始め、3日間を通して、のべ23人の組合員さんが集まりました。新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの作業でしたが、現状のミャンマーの様子など伺いながら、組合員同士の交流が持てました。また、皆様のボランティア精神、協同組合のささえあい助け合う心か感じられるひとときでした。



現在、完成した千羽鶴と皆様からのメッセージは、郵送できるよう、箱に入れて保管中です。

荒木さんのお話しでは、ミャンマーの情勢は他の東南アジアと同様に新型コロナの爆発的な感染拡大が続いており、クーデター後の混乱と相まって非常に困難な状況になっているそうです。今のところEMSはまだサービスが再開されていないので、千羽鶴をいつ送れるかが判らない状況ですが、何とか早くミャンマーの人達に届けたいと願うばかりです。

過去の戦争から学び続けている私たちゆえに、すべての人が傷つき、すべての人に苦しみを残す争いが早く終結し、穏やかに暮らせる日々がくる事を願い祈り続けたいと思います。皆様の想いととともに、千羽鶴が無事にミャンマーに届いた際には、改めてお知らせいたします。



平和の集い 市民学習会 「私たちの暮らしと憲法」講座 リニューアルのお知らせ

2016年から始まった、「私たちの暮らしと憲法」講座が9月からリニューアルします。日本国憲法の前文から、各章を順番に紐解いていましたが、日常のニュースや暮らしの中から、憲法を学びます。講師の山本先生が用意してくださった9月から12月までの講座内容は、より身近に憲法がを知ることができる内容ばかりです。

現在、新型コロナウイルス感染症対策として、ZOOMを使ってのオンライン講座ですが、自宅から気軽に参加出来ることもあって、コロナ禍でも継続している組合員同士の交流の場にもなっています。組合員はもちろんのこと、組合員以外の方も参加出来ますので、お友達を誘っての参加も大歓迎です。新しくなった「私たちの暮らしと憲法」講座、みなさまのご参加をお待ちしております！

リニューアル初回は

9月1日（水曜日）10時～11時30分「オリンピックと憲法」です！

※講座の詳細に関しては配布中の別紙をご覧ください。

※左のQRコードからも申し込みできます



～終戦の日に寄せて～ 今だから、読んでほしい「戦争体験」part3



3人目 戸取大吉郎さん 88歳

昭和8年 東京都文京区本郷生まれ。職員木本の父。以下はインタビューを受けるにあたり父が準備してくれた「戦争の記憶」のレポート。

【疎開】

昭和18年頃から縁故疎開※、やがて集団疎開が始まった。我が家では何故か、世田谷区下馬に家を購入、転居する。これが疎開？ 江戸末期から住み慣れた文京区の本郷よりも世田谷の方が安全とでも考えたのか。※1親戚などの縁故を頼る疎開。縁故が無い人は学校ごと集団疎開をした

【空襲】

やがて東京にもB29の空襲が始まった。そして1945年3月10日、本郷（自宅も）は焼け野原となる。建物がみな焼けてしまい、新宿まで見渡せたという。翌日の午後、着の身着のままの叔母が、とぼとぼと師範学校の横を歩いてやってきた。本郷から世田谷の下馬まで一晩中必死になってよろよろ歩いてきたのだ。発見した時、髪はざんばら、着物は焼けただれ、ほんとに一瞬幽霊かと思ったほどである。

空襲したB-29 300機

空襲で亡くなった人 約10万人

空襲で負傷した人 約4～11万人

焼夷弾は落ちた途端ゴーツと燃え広がった。一つの焼夷弾の中に50発もの弾が込められ、上空で外枠が外れ50発がバラバラに飛び落ち、地に着くと爆発し、入っていた粘着のある火種が飛び散る。火種は、壁、衣服、何にでもしっかり吸い付くように着いて燃える仕組み。衣服に着くとあっという間に人間火だるまになる。1弾で50発分だが、1回の空襲でそれが何百も落とされた。



【機銃掃射】

中学受験を迎え、啓明学園に入学。当時どの中学も勤労働員があつたが、ここでは別室で「雲母剥き」をしてそれが動員に当たるとのことだった。

ある日、第一師範の駅（現在の東横線 学芸大学駅）へ向かう途中、空襲警報のサイレンが鳴ると同時に前方に飛行機の姿が見えた。こちらへ向かってくる。激しい機銃掃射である。

1メートル間隔で地面に穴が開き土煙が立つ、その時歩いていたのは私一人だけ、私は狙われたのだ。すぐその横の家に逃げ込み、押し入れの下に匿ってもらった。機銃掃射の弾は、瓦屋根を突き抜け、押し入れの上の段の布団の中で止まっていた。ほんとに一瞬の間での命拾いだった。

【火だるま飛行機が】

やがて世田谷も激しい空爆に見舞われ、もうこれで終わりかと思う時があった。空襲警報が鳴り、この辺は危ないということで逃げることにした。雨戸を外し、大事な物を乗せ、叔母と二人で持ち出そうとした時、バリッと雨戸が折れてしまった。荷物の乗せすぎ、荷物は諦めて身体だけでもと玄関の方へ出ると、目の前前方に真っ赤に燃えた大きな火の塊が見える。飛行機が燃えている。それがどんどん近づいてくる。もう逃げようがない、ダメだ、と思っていたら、火の塊は地面に墜落。助かった。

【教育】

ワラで編んだ「はたき」のような「火たたき」、木の板を蓋としてかぶせた防空壕。今思えば「よく燃えるもの」で爆弾を防ごうとしていたのだから笑話のよう。でも当時はそういうものだと思って、疑いもしなかった（実際の空襲では防空壕は蒸し焼き同然。中の人黒焦げになってしまった）。流れてくる歌も「戦意を高揚させる」ものだったし、特攻隊がつける「白いスカーフ」がかっこよく見えて志願兵になろうと思ったこともあった。「国のために生き、死ぬこと」それが当たり前だった。戦争のために最初にすることが、そういう人間をつくる「教育」。

【戦後、教員に】

昭和30年、足立区の小学校の教員となった。戦時中出来なかったことを教員になってやってやろう！と熱意に燃えていた。最初に受け持った3年生のクラスで「先生は君たちを殴りません」と自己紹介。子どもたちからは大歓声があがった。学校でも家庭でも「殴るのが当たり前」だったから、親たちから「じゃあどうやって教育すればいいんだ!？」と大クレームに。親たちへ「馬や牛はムチでないということを知らない。でも人間は違う。言葉が通じるからだ。殴った後に残るのは反抗心だけだ」と、あちこちで講演してまわった。当時、日教組（日本教職員組合）のスローガンは「教え子を2度と戦場へ送るな」だった。子どもたちには「民主主義」を教えた。しかし、学校の自由はすぐに制限されるようになり、民主教育は続かなかった。教員の活動もおさえつけられるようになった。

4人目 齋藤 喩さん 88歳

昭和20年4月、静岡県立豆陽中学校に入学。寮生活始まる。3年生以上は三島の軍需工場へ徴用、2年生が1年生の規律、躰け役。鉄拳指導は日常茶飯事。言葉遣い、味噌汁の盛り付け、茶碗の持ち方まで指導が及んだ。

当時、下田湾は米軍の上陸地として防衛の拠点となっていた。鍋田湾には、菊水隊(小型潜水艦隊)が偽装網で覆われた網に生きの良い小枝を隙間なく刺され、海底に待機していた。下田城の山の海岸には、上陸用舟艇を格納する横穴が無数に掘られ、不気味な様相を呈していた。

5月になると、食糧事情は悪くなり（配給）、寮の食事も、二日間、芋、芋、芋飯、すいとん、芋飯のローテーション。

授業は無く毎日勤労働員、大砲設置の為の横穴掘り、高射機関砲の偽装の為の小枝採り、兵士への物資の輸送等。

6月当時、米軍は小型空母で下田近海まで接近していた。空母には艦載機グラマンが搭載されており、下田市街地でも機銃掃射の犠牲が多く聞かされるようになっていた。

【機銃掃射】

私の任務は兵隊の服装品管理、沿岸警備隊本部の三井海洋研究所へ物資の輸送。研究所の前はすぐ海で、潜れば、シツカ、トコブシ、サザエ、アワビ、何でも採れる。許可を得てよく潜っていた。

昼休み、獲物を狙って潜りを繰り返していたその時、南の空に黒い影が走った。黒点はみるみる大きくなり、海面に点々と水柱が立っていた。グラマンの機銃掃射だ。明らかに私を狙って照準を合わせている。次の瞬間、とてつもない大きな轟音と共に岩に当たる弾丸、落花する葉莢。急降下してきたグラマンの機体、乗っている米兵の笑みがはっきり見えた。急いで岩の反対側に身を隠した。グラマンは2～3回機銃掃射を繰り返したが諦めて姿を消した。この日、下田湾に待機していた潜水艦隊で20人の死者が出ていた。運良く命拾いしたが、操縦員の米兵の不気味な笑顔は今でも忘れられない。



(Part.4へ続く)

小さな上映会便り 2021年 8月 (脱原発とくらし見直し委員会)

※紙面の都合上、一部省略させていただきます。

No	題名	観た組合員さんからの感想文
42	子どもと貧困 日本の小学生 高校生、フィンランドの高校生	以前に、NHKの番組で見た内容もあり、子どもの貧困について再度考えさせられました。「子は社会の宝」
43	シンゴジラ	感想なし "ゴジラ"が"コロナ"と重なって見えて、今の状況と同じみたいだと思いました。なにより野村萬斎さんがゴジラだったとは・・・おどろいた！
44	わたしの終わらない旅	少しは知っていたつもりでしたが・・・核の平和利用なんてありえない事を深く理解出来ました。
52	モンサントの不自然な食べ物	グリホサートは日本でも除草剤として使用されており、特に大豆ではプレハーベストの問題もありとても興味深く観ました。利潤追求に偏る企業について多くの人に見てほしいDVDです。
59	あまくない砂糖の話	砂糖の害について理解を深める事ができました。
62	スーパーサイズミー	子どもへの宣伝が怖いと思いました。マックに子供は連れて行きたくないけど、子供は行きたいと言う。大きくなったら友達づきあいで行くようになるだろうなとも思う。食を取り巻く状況を知って自分で選択できるようになってほしい。 子どもと見ました。ファーストフードの危なさを知っていましたがここまでとは思わず恐ろしかった。ジュースなども気を付けていきたいです。
72	誰も知らない基地のこと	戦争の為に基地があるのではなく、基地(駐留軍)を残す為に戦争が仕掛けられているという逆説的な"核心"、即ち基地ネットワークの運営自体が現代の「帝国」そのものだとアメリカの様々な専門家が説いている。「戦争は政治の延長」との定義は有名だが、この抽象的な"政治"の実体としての軍産官学複合隊の意向とのリンクは更に具体的に学ぶべき所だろう。
73	戦争のつくりかた	戦争が何故おこるかの一端を見る事ができました。
74	命に国境はない	高遠菜穂子さんのイラクの報告はなまなましくいろいろと再認識できました。
75	ハンナ・アーレント	深い内容でした。 大変充実した内容でした。「思考」の大切さ、自分の頭でしっかり考えること、心していきたいと思えます。 丹念に見たつもりだがアーレントが世界中から非難された理由がよくわからなかった。"合意独裁"と称されるナチスのスローガン「大統領は命じ我々は従う」が熱狂的に支持された経緯からも"悪の凡庸さ"の定義は正当。またユダヤ人指導者の協力問題も裁判の中でユダヤ人自身が糾弾した事実だった。なのにこの指摘がナチの擁護、ユダヤ人そのものへの批判とされたのは何故か。ヒントはシオニズム？
76	スペシャリスト	おどろくと同時に深く理解は出来ませんでした。
77	アフガニスタン用水路が運ぶ恵みと平和	西南アジアで35年間に渡り"体を張って"活動した中村哲医師。その自然体の粘り強さと、人を引き付ける、先頭には立っても決して上には立たない人柄とに感銘を受けた。「緑の大地計画」は「協力して自分たちの国土を回復する・・・三度三度のご飯が食べられて・・・自分たちの手でやれば出来る」ということを形にして伝え、兵士を生まない大地を作ったのだと思う。「PMSの灌漑方式」は日本人の知恵の結晶。合理性に驚いた。
78	孫崎享 東アジア情勢を語る	徴用工、従軍慰安婦、北方四島、竹島問題。私達は急にナショナリストになる。"日本の利益を守る"のは当然で、正当性は二の次だ。しかし孫崎さんは平和的解決の道は一杯あると語る。キーワードは"共通の価値観を見出す"こと。米国に忠誠を誓い、戦争責任を免れた者達によって牛耳られてきた戦後日本。この構造を中心に歴史を見直した先にこそ、反対、阻止の域を出た平和への道が展望されるのだろう。
79	コスタリカの奇跡	教育の役割は絶大だ。それは知識や判断力に止まらず、人の価値観を左右し、生き方を方向付ける。この教育の充実と社会保障の確立のため常備軍を廃止したコスタリカ。以降70年間、米国の政治的経済的揺さぶりの中でコスタリカはもがき続けているようだ。皮肉にも4千人以上が死んだ武力革命で勝ち取られたこの選択だが、新自由主義の波に晒され、"見事に実現した社会"は、また"絵空事"になろうとしているのか。

※DVD貸出申込は注文用紙意見欄orホームページ上の[組合員問い合わせフォーム](#)にて、ナンバーとDVD記入してお申込み下さい。